

61007 子ども・地域と防災(防犯)教育**Education of Disaster Prevention for Children and Community**

2014年度 前期 火曜1限

担当講師 佐々木貴子, 酒井多加志, 藤本将人, 境 智洋, 小松丈晃, 渡壁 誠, 今 尚之

○ **授業内容**

教員として、子どもたちに災害や防災について指導するために必要な、基礎的なことから、講義とワークショップで学び、防災の視点を獲得する教員を志望する学生のための教員養成教養科目です。

○ **授業の目標**

災害が発生すると、子どもたちが命を落とす痛ましい出来事が繰り返されています。それは、防災という視点が薄く、自分の命は自分で守るという基本的な意識やそれに関する知識も十分に教えられていなかったことに起因しています。

子どもたちに、命の大切さ、人と人とのつながり、きづなの必要性を教え、子ども自身はもとより、家族、そして地域の人々の生命や生活を、安全に守るために必要な能力や態度を育成することが、これまで以上に求められています。

さらに、学校は、災害時には地域住民の避難先となります。もちろん日々の指導の中で、子どもに命の大切さを教えると共に、子どもの命を守る役割も担っています。したがって、子どもの命を守り、地域の安心・安全確保へのまなざしは、教師として常に持ち続けなくてはなりません。

以上から、本授業は、特に教員を志望する学生を対象に、全学連携科目として、教師として持つべき防災の基礎的な知識を得ることを第一の目標とします。そして、「備えあれば憂いなし」といわれるように、日ごろの防災に向けた実践力を身に付けることを目指します。本授業は、ESD（持続可能な社会に向けた教育）でもあります。

○ **到達目標**

- ① 教員として、防災への眼差しを持つことの重要性を理解し、自分の言葉で表現できる。
- ② 災害の種類、地形と災害との関係、災害への対応を知り、簡単な説明ができる。
- ③ 「自助・共助・公助」を理解し、説明ができる。
- ④ 災害時における学校の役割と教員のあり方を理解する。
- ⑤ 各教科における災害・防災の取り扱いについて理解する。
- ⑥ 防災の視点から街並みや地域の営みを知り、検証する活動方法を理解し、自ら実践できるようになる。

○ **授業計画**

授業は、Aパート「災害を知り、防災と教育を理解する」、Bパート「フィールドワーク（防災まち歩き）」の二部構成です。講義（教室での受講）と体験学習（演習）の組み合わせで行います。

・Aパート「災害を知り、防災と教育を理解する」：（1～11回）

教師として防災への眼差しを持つことの重要性を理解します。災害の種類や災害の実態、被災体験談などから、災害や災害時に子どもたちがおかれる環境を学び、地図を読み解く講義と演習をとおして、地形と災害との関係、災害を防ぎ被害を少なくするための工夫や施設、情報のあり方などを知り、考えます。

また、防災の基本として「自助・共助・公助」を理解し、大人と子どもがともに地域（コミュニティ）を育てる（創る）ことの意義などを学びます。そして、災害時における学校の役割と教員のあり方を知り、各教科における災害・防災の取り扱い方について学びます。

・Bパート「防災を体験する」：（12～15回）

フィールドワークとして防災の視点からまち歩きを体験し、講義を振り返ります。ここでは、それぞれの講義を通して学習した内容を関連付け、防災マップを作成します。さらに、双方向遠隔授業システムを用いた、キャンパス間を結んだふりかえりの授業によって、防災の視点による街並みや地域の営みへのまなざしを獲得する、体験的な学びによって、理解を促進し、実践力を身につけます。

・授業の進み方

1. 4月15日（火） ガイダンス（佐々木貴子、酒井多加志、渡壁誠、今尚之）【①、④】

授業のあらまし、成績評価や講師の紹介、受講人数制限について、防災（防犯）教育の意義、教員を目指す学生として持つべき視点など

なお、7月にフィールドワークを行いません。時数調整のため、第2回目は5月9日（金）（火曜授業日）となります。その間、授業のメイキング（予習）として、別紙案内の課題に取り組みます。

2. 4月22日（火） 日本の国土と災害 榎本 弘（札幌管区気象台調査官）【②、⑤】

日本の国土がおかれている自然環境、自然災害の種類とその原因について

3. 4月30日（水） 休講（フィールドワーク分の時間調整のため）

4. 5月 9日（金） 災害と地域や子どもたち 吉井厚志（国立寒地土木研究所）【②、④】

水害や火山災害を事例とした被災の状況や復興、防災事業などについて

5. 5月13日（火） 災害と防災、防災への取り組み 今尚之（北教大札幌）【②、⑤、⑥】

災害、防災の定義。国土の活用と災害を防ぐ取り組みなどについて

6. 5月20日（火） 地図を読み解く（1） 酒井多加志（北教大釧路）【②、⑤、⑥】

地図から理解する災害と防災（1）

7. 5月27日（火） 地図を読み解く（2） 酒井多加志（北教大釧路）【②、⑤、⑥】

地図から理解する災害と防災（2）

8. 6月 3日（火） コミュニティと防災 小松文晃（北教大函館）【③、④、⑤】

コミュニティや町内会など共助に関わる組織やその役割理解。自主防災組織の意義や役割などについて

9. 6月10日（火） 防災教育と社会科 藤本将人（北教大釧路）【⑤】

社会科と防災教育。学習指導要領，教科書での防災や災害の扱いなどについて

10. 6月17日(火) 防災教育と理科 境 智洋(北教大釧路)【⑤】

理科と防災教育。学習指導要領，教科書での防災や災害の扱いなどについて

11. 6月24日(火) 防災教育と家庭科 佐々木 貴子(北教大札幌)【⑤】

自助・共助と防災，家庭科と防災教育。学習指導要領，教科書での防災や災害の扱いなどについて

○ **7月 1日(火) 中間試験**

プリコード式あるいはキーワードなどを記述する形式で，初回から10回までに獲得した知識を確認します。フィールドワークに向けた学習のレディネスを確認するもので，合格しないとフィールドワークに参加できません。

12. 7月 8日(火) フィールドワーク事前指導 佐々木貴子，酒井多加志，渡壁誠，今 尚之【①，⑥】

各キャンパスごとに実施する。フィールドワーク参加者による地図づくりなど。事前指導に出席しないとフィールドワークに参加できません。

13～14. 7月12日(土) フィールドワーク A日程・釧路校 8:50～15:30

7月13日(日) フィールドワーク B日程・札幌校 8:50～15:30

7月19日(土) フィールドワーク C日程・旭川校 8:50～15:30

佐々木貴子，酒井多加志，渡壁誠，今 尚之【①，⑥】

受講者は，A日程，B日程，C日程いずれかを選び，どの日程で参加するか，事前指導までに決定し，必ず出席します。

フィールドワークの実施要項は別途配布します。フィールドワークの内容は，1) 災害イマジネーションゲームの体験，2) 防災の視点による街点検等です。

15. 7月22日(火) フィールドワークのまとめとふりかえり 佐々木貴子，酒井多加志，渡壁誠，今 尚之【①，⑥】

フィールドワークでの学びをふり返ります。札幌会場，旭川会場，釧路会場それぞれの学びを発表しあい共有します。

※【】内の○囲み数字は，到達目標の○囲み数字によって示された到達目標項目と対応です。

○ **成績評価**

到達目標①～⑥すべてで一定の成果を求めます。

到達目標②～⑤については，各講義後に中間試験および各先生によって出題される課題により評価を行います(50%)

到達目標①および⑥については，フィールドワーク終了後のふりかえりレポート(15%)と，まとめのふりかえり終了後の総括レポート(35%)により評価を行います。

欠席は、実習、就職活動、伝染性の疾患などやむを得ない場合以外は認めません。欠席がある場合、該当する目標の評価は行われません。

フィールドワークは、グループワークで行うために、欠席した場合代替措置がとれません。そのため、欠席した場合、成績評価の対象外となります。

○ テキスト

授業はプリントを配布します。量が多くなるのでファイルを用意し、毎回とじてください。

また、担当教員によって授業中に使用する用具などの指示があります。忘れずに対応をしてください。

○ 参考文献

内容をより理解するために、以下の参考書やサイトをお薦めします。このほか、授業中にも紹介をします。

- ・ 伊藤和明著：「日本の地震災害」,岩波新書
- ・ 土木学会編：「日本に住むための必須！！防災知識 小学校高学年」, 土木学会
- ・ 土木学会津波研究小委員会編：「津波から生き残るーその時まで知ってほしいことー」, 土木学会
- ・ 土木学会地盤工学委員会・斜面工学研究委員会編：「知っておきたい斜面のはなしQ&Aー斜面と暮らすー」, 土木学会
- ・ 土木学会地盤工学委員会・斜面工学研究委員会編：「家族を守る斜面の知識ーあなたの家は大丈夫？ー」, 土木学会
- ・ 土木学会地震工学委員会・地震防災技術普及小委員会編：「地震災害マネジメントー巨大地震に備えるための手法と技法ー」, 土木学会
- ・ 土木学会誌編集委員会編：「土木学会誌叢書9 これからの安全・安心ー災害情報を生かすー」, 土木学会
- ・ 山下亨編著：「トイレが大変！増補版 阪神・淡路大震災と新潟県中越大震災の教訓」 「心の救援 海外編災害救援新時代」, 近代消防社
- ・ 河田 恵昭著：「これからの防災・減災がわかる本」, 岩波ジュニア新書, 2008 (平成20) 年
- ・ スペンドリニ カクチ著：「あなたにもできる災害ボランティアー津波被害の現場から」, 2005 (平成17) 年
- ・ 岩田一彦編著『”エネルギー問題”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書, 2005年
- ・ 若林幹夫：郊外の社会学ー現代を生きる形 (ちくま新書)
- ・ 吉村昭：三陸海岸大津波, 文春文庫
- ・ 吉村昭：関東大震災, 文春文庫
- ・ せおまさし 文, 藤田夏代子 絵：『地震のこと はなそう』, 自由国民社
- ・ 国立国会図書館 ISSUE BRIEF NUMBER 736(2012. 2. 7.) 東日本大震災からの学校の復興ー現状と課題ー
- ・ 内閣府・防災情報, <http://www.bousai.go.jp/>
- ・ 独立行政法人 防災科学技術研究所, <http://www.bosai.go.jp/>

- ・ 自然災害を学ぶ, http://www.bosai.go.jp/activity_general/
- ・ 災害の発生原因や被害についての説明パンフレット, <http://www.bosai.go.jp/study/inspect/collect/index.html>
- ・ 自然災害情報室（自然災害・防災に関する情報発信や自然災害を学ぶWeb講座, 防災テキストブックなど）, <http://dil.bosai.go.jp/index.html>
- ・ 日本の地震活動立体模型「震源くん」, <http://www.hinet.bosai.go.jp/Shingenkun/>
- ・ 防災科学技術研究所 自然災害情報室「防災教育コレクション」（研究所所蔵の500点以上の防災や災害に関する絵本, 児童書, 紙芝居, カルタなどの目録）, <http://dil.bosai.go.jp/documents/education/index.html>
- ・ 政府インターネットテレビ51ch 防災チャンネル, <http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg5229.html?c=51>
- ・ 国土交通省気象庁気象統計情報（過去の気象データ, 日々の天気図, 過去の台風の資料, 地震・津波の各種資料など）, <http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>
 - ・ 国土交通省防災情報提供センター（火山噴火, 風水害などの情報や, 日本各地のハザードマップのリンク集, 防災知識リンクなど）, <http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>
- ・ 札幌市「冬を学ぶ・知る」（札幌ゆきだるまプロジェクト公式ホームページ, 冬の札幌暮らし・文化, 冬のまちづくり活動事例集, さっぽろ雪の絵本, まんがさっぽろ雪の絵本, わたしたちのくらしと雪（子供向け）, 動画でみる除雪作業, 除雪のあゆみなどの豊富な内容が提供されている）, <http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/fuyu/index.html>
 - ・ さっぽろ雪の絵本, <http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/ehon/index.html>
 - ・ 札幌ゆきだるまプロジェクト（ゆきだるまを主人公にした除雪などの啓発アニメーション番組の提供）, <http://yukidaruman.jp/>

○ オフィス・アワー

各先生方への連絡は、電子メールが便利です。

佐々木貴子（札幌校）	sasaki.takako@s.hokkyodai.ac.jp
酒井 多加志（釧路校）	sakai.takashi@k.hokkyodai.ac.jp
藤本 将人（釧路校）	fujimoto.masato@k.hokkyodai.ac.jp
境 智洋（釧路校）	sakai.chihiro@k.hokkyodai.ac.jp
小松 丈晃（函館校）	komatsu.takeaki@h.hokkyodai.ac.jp
渡壁 誠（旭川校）	watakabe.makoto@a.hokkyodai.ac.jp
今 尚之（札幌校）	lecture2014@mail.momonga.gr.jp

備考（履修条件・履修上の注意等）

【フィールドワーク日程】

「フィールドワーク（防災まち歩き）（Bパート）」の演習は、教員4名（佐々木, 酒井, 渡壁, 今）が札幌, 旭川, 釧路の各校に出向き, 午前 8:50～午後 15:30（予定）まで実施します。

具体的なプログラムや準備することなど, 詳細は受講人数が決ってから改めて連絡します。

【フィールドワーク事前指導】

フィールドワークの事前指導を欠席した場合にはフィールドワークには参加できません。
フィールドワークに参加しない。あるいは、欠席した場合には成績評価対象外となります。

【フィールドワークの心構え】

フィールドワークは協同で学ぶことにより、それまでの学習内容を深め、発展させるものです。グループでの活動に参加していないと判断される場合には、以後の受講をお断りします。

【授業のお知らせ】

インターネットのホームページから授業の案内をします。<http://lab.momonga.gr.jp/lecture/> にアクセスして、各自確認をしてください。携帯電話用のサイトもありますので、上記アドレスで設定などをしてください。

【やむを得ない事情による欠席対応】

やむを得ない事情で欠席した場合の補講対応は、各先生方によって異なります。「部活の試合」などで欠席届を出しても、カリキュラム委員会による正式な書類ではないので、受け付けません。したがって、補講の対象とはなりません。

札幌校での基礎実習、新入学生宿泊研修で欠席した場合には、可能な講義については補講対応をします。なお、補講を正当な理由なく欠席する場合には、中間試験を受けることができません。

補講の実施については、基礎実習や新入学生宿泊研修の日程が決まり次第案内をします。



インターネットで配信する
Bosaijoho-Shinbun
防災情報新聞 無料版

発行:防災情報機構 NPO法人 編集:防災情報新聞社

トップニュース
官庁・自治体情報
法人・学会・民間
読み物
防災イベント情報
被災地物産館
WEB防災見本市
防災士

- 読み物**
- ▶ [インサイト・アウト](#) ▶ [随想](#) ▶ [おもしろ瓦版](#) ▶ [防災ミュージアム](#) ▶ [防災まちづくり大賞受賞団体](#)
 - ▶ [知って得する](#) ▶ [ぼうさい閑話](#) ▶ [周年災害](#) ▶ [映画/DVDなど](#) ▶ [記者の本棚](#)
 - ▶ [防災情報新聞 無料版TOP](#) ▶ [読み物TOP](#) ▶ [防災まちづくり大賞受賞団体TOP](#) ▶ [北海道教育大学\(北海道札幌市\)](#)
 - ▶ [防災まちづくり大賞受賞団体](#)

北海道教育大学(北海道札幌市)

○北海道教育大学
2007年(平成19年)度、第12回「防災まちづくり大賞・消防庁長官賞」を「北海道教育大学」が受賞した。
北海道教育大学は、全国に10校ある教育系国立大学法人の一つで、教育学部として札幌、函館、旭川、釧路、岩見沢の5都市にキャンパスがあり、ほかに大学院教育学研究科、特殊教育特別専攻科、養護教諭特別科をもつ北海道を代表する大学である。
大学の前身は、1949年(昭和24年)5月、当時の4師範学校を包括して誕生した国立北海道学芸大学で、1966年(昭和41年)4月、現校名に改称されている。
その“大学憲章”によれば、「21世紀の社会と教育は(中略)他者と積極的に関わり共存する柔軟な人間性を求めている。そのためには、(中略)社会に広がりを持つ人間性の育成が不可欠である」また「現代の教師には、子どもたちが抱える困難をわがこととして受け止める感受性が求められる。21世紀の地域と国際社会の諸課題への挑戦にも、同様な志が求められる」とある。(出典: [北海道教育大学ホームページ](#))



北海道教育大学本校(札幌校)

◇北海道教育大学における防災教育授業

○防災教育を行っている大学
全国の大学で“防災”を学部及び学科として設置しているのは、私立の富士常葉大学環境防災学部環境防災学科と、これも私立の千葉科学大学危機管理学部防災システム学科、同環境安全システム学科及び危機管理システム学科の2校が知られており、その設置は富士常葉大学が2000年、千葉科学大学は2004年と比較的新しい。
北海道教育大学の場合、特別に学科を設置しているわけではないが、各専攻を越えた全学連携科目として設置している「現代を読み解く科目群」の一授業として「子ども・地域と防災(犯)教育授業」を開講しているのである。

○北海道教育大学の再編による教員養成課程の設置
同大学では、2006年度(平成18年度)から5キャンパスそれぞれを特色化し、重点化する構想の基に大学の再編成を行い、札幌校、旭川校、釧路校に「教員養成課程」を新たに設置した。この課程は“現代の学校が抱える多くの教育課題を解決することができる実践的な指導力を持った教員の養成を目指す”ものとしている。その中の「教養科目」(主に1年次に取得)の中に“現代社会の諸問題をさまざまな角度から考え、総合的に対処できる能力の育成を目指す科目”としてさきの「現代を読み解く科目群」が設けられた。(かっこ内の解説出典:北海道教育大学学部案内および札幌校の概要)

○新しい防災授業開講の中心となった教員たち
この「現代を読み解く科目群」の扱う“現代社会の諸問題”の一つとして“防災(犯)”があるわけだが、「子ども・地域と防災(犯)教育」の授業開講の中心となったのは、家庭科教育学(札幌校)、土木工学(当時旭川校)、地理学(釧路校)、社会学(当時釧路校)をそれぞれ専攻する4名の教員だった。
4名の教員はそれぞれ、各キャンパスにおいてそれぞれの専攻領域の中で“防災に関する教育”に取り組んできたが、同大学の再編を機に連携して各専攻を越えた同一の授業を立ち上げたものという。
各教員の専攻する学問は、従来の概念で言えば“防災”とは関わりがあるが、地震学、火災学のような直接的な関係はないように思われる。中でも“家庭科教育学”と“防災”とは、結びつかないと感じられる方が多いかも知れない。

○家庭科教育学専攻の教員が防災教育の中心になった
家庭科教育学を専攻している教員が防災教育を始めたきっかけは、以前、兵庫教育大学で修学中、教を受けた教授の次のひと言に触発されたからという。
「家庭科は、家庭生活を中心とする人間の生活を健康で文化的に営むことのできる能力をつける教科で、生活を工夫しようとする実践的な態度を育てること、家族・家庭と社会の関わりについて理解させることを重視しているんですよね。ではなぜ、阪神・淡路大震災で多くの子どもたちが自分の部屋で亡くなったのか? 「家庭科で指導している住生活の内容は、防災という視点があるのでしょうか?」
このひと言により調査を進めたところ、当時の家庭科教育に“防災”という視点が薄いことがわかり、その後、“防災の視点を取り入れた新たな家庭科教育のあり方”を研究、北海道教育大学へ赴任後、『生活と防災』という授業を開講、実践の中から次のようにとりまとめた。「防災の視点から自分の暮らしを見直し、安全な住環境をつくる。また、自分や家族、地域の人びととの関係を見直し、安全で安心できる住環境をつ

記事検索

初めての方へ [本サイトの内容・活用について](#)

水損・水害防止のセキュリティー製品



AQUA-BOY

QUBE



電源をつないだまま充電できる
「簡易UPS」機能搭載!
スタイリッシュ・ポータブルバッテリー

The 防災チャンネル

「防災えんすTV」
「ぼうさいホット」にゆーす! 「ペット防災会議」他を配信中!
一画面をクリック

身近な防災資機材から大規模な防災関連システムまで

WEB防災見本市

最新の防災情報を声でお届け **ポッドキャスト**

伊藤和明の防災えんす

防災カレンダー

毎年2カ月(この日配った災害付き) & 連年イベントカレンダー

Bosai+Plus
a newsletter

防災ニュース

月2回/年24号発行/年配送料 2400円

Bosai+Plus
a newsletter

特別連載企画

非常食 備蓄計画 発進!

詳しくはコチラ▶

災害に立ち向う人のために

レスキューフーズ

Rescue foods

ホリカフーズ

秋・冬の第2波警戒!

新型インフルエンザ情報

詳しくはコチラ▶

7月2日 初期微動…… 防災情報新聞 特設サイト

東京マグニチュード80

(株)東京マグニチュード80特設委員会

- Corporation, academy, private organization
法人・学会・民間
- ▶ [研究機関・学会](#)
 - ▶ [公益法人など](#)
 - ▶ [ライフライン](#)
 - ▶ [ボランティア](#)
 - ▶ [企業・関連団体](#)
 - ▶ [その他の組織・海外](#)

- Reading Contents
読み物
- ▶ [伊藤和明のインサイト・アウト](#)
 - ▶ [随想](#)

くっていくこと。これは家庭科教育として重要ではないか。

これが新しく『子ども・地域と防災(犯)教育』の授業をつくる上での中心的な考えとなり、志を同じくする教員が集い開講の運びとなったという。

◇子ども・地域と防災(犯)教育の授業

○授業の内容

「子ども・地域と防災(犯)教育」の授業は二部構成で、Aパート「災害を知り、防災と教育を理解する」では、災害の実態や災害時に子どもたちがおかれる環境、各教科における災害・防災の取り扱いなどを講義と演習を通して学び、学生に教師として防災へのまなざしを持つことの重要性を理解させている。

Bパート「防災を体験する」はフィールドワークで、防災の視点から「まち歩き」を体験し、講義の内容とを関連づけて「防災マップ」を作成する。また、授業は「教員養成過程」が設置されている札幌、旭川、釧路各キャンパスを双方向遠隔授業システムで結び、全学連携授業として同一内容の授業を行うとともに、相互に各地域の情報を交換しあいながら進められている。

○DIGワークショップの実施

このように防災教育を進めていく上で、以上の授業の一環として行われている「災害図上訓練(DIG)」を取り入れた参加体験型ワークショップが好評で非常に効果的だという。

これは各キャンパスのある地域単位で行われているが、地元の消防署職員など防災関係者や住民も参加、学生は関係者から各種訓練の指導を受けたり、一緒に災害図上訓練を行う。その過程で、自分や家族、地域の人びとの生命や生活の安全性を守ることの必要性や自らの役割を学ぶことができるという。

◇防災教育のひろがり

○小中学校での防災学習

北海道教育大学で「防災に関する授業」を担っている教員にとって、地域に対する活動は自ら専攻する学問の体験型研究であり、その成果が学生に対する授業に反映し、防災に対する相乗効果を生んでいるようだ。

小中学校での防災学習の最初は2001年度(平成13年度)のことで、函館市立大川中学校の2年生の選択教科(家庭科)の22時間で行われた。テーマは「防災の視点をとりにれた中学校技術・家庭科(家庭分野)の指導内容・方法の提案」である。

その授業は北海道教育大学の教員の指導のもと、同大学大学院生(当時同中学校の臨時家庭科教員)と4年目の学生2人が授業計画の作成と実施を担当し、地域住民と中学生と一緒に災害図上訓練を行った。

以後、小学校の「総合的な学習の時間」を活用するなど、さまざまな防災関連のテーマで実施しているが、生徒たちとともに健全な地域住民だけでなく聴覚障害者も一緒に災害図上訓練を受けるといった、多様な授業体験を積んでいる。

これらの活動を通して新たに「小中学用防災学習プログラム」が開発され、それによる指導を受けた中学校が「防災まちづくり大賞奨励賞」を受けるなど成果が上がっている。

○地域貢献活動

関係教員による地域に対する活動は、小中学校対象よりは早い2000年10月、函館市を皮切りに災害図上訓練の指導を始めていたが、小中学校での防災教育に成果を上げたことで、他の小中学校の先生方やPTAさらに教育委員会から災害図上訓練の指導要請が増えたという。

その後、北海道危機対策室が「防災マスター養成講座」に災害図上訓練の手法を取り入れ北海道全域にその手法は広がっている。

災害図上訓練の手法が広まるにつれ、それを指導する「DIGファシリテーター」の養成が課題となって来た。そこで北海道教育大学学長が裁量する経費を受けて、DIGファシリテーターを希望する地域住民や行政職員を対象に同養成講座を実施、延べ50名の指導者を誕生させるとともに、同養成プログラムの開発をすることができたという。

○防災教育(研修)の新しいプログラグ開発に期待

北海道教育大学が行っている防災教育(学習)の特徴は、従来なら担当が違うと評価されそうな、それも専攻が異なる教員たちが連携して新しい防災に関する授業を立ち上げたこと。各キャンパスのある地域情報を交換しあい問題を共有化していること。誰もが安全で安心な住環境をつくるという観点から「防犯」から「福祉」「地域コミュニティ」などテーマの豊富さ。また、授業でのフィールドワークや、子どもたちとの防災学



「子ども・地域と防災(犯)教育」
上・住民も参加した講義風景
下・住民と一緒にフィールドワークのまち歩き



小中学校や地域での防災学習や教育活動
上・函館市立八幡小学校で被災時のご飯づくり実習
下・地域での災害図上訓練で小学生が生き生き発言

- [▶ おもしろ瓦版](#)
- [▶ 防災ミュージアム](#)
- [▶ 防災まちづくり大賞受賞団体](#)
- [▶ 知って得する](#)
- [▶ ぼうさい閑話](#)
- [▶ 周年災害](#)
- [▶ 映画/DVDなど](#)
- [▶ 記者の本棚](#)

Featuring Contents
注目コンテンツ

- [▶ 防災イベント情報](#)
- [▶ WEB防災見本市](#)
- [▶ ポッドキャスト防災えんす](#)
- [▶ お役立ちツール](#)
- [▶ おすすめ記事アーカイブ](#)

防災関係者に評価の高い
SONAeLカタログ
のお申し込みはコチラ →

消防新時代をデザイン
近代消防
株式会社 近代消防社

防災士研修センターの避難所運営プログラム
S.A.F.E.
Shelter Aid Focused Exercise
避難所開設・運営訓練のご提案

Buy & Support
被災地物産館 >>>

[▶ インド洋津波の被災地、スリランカで作るアーティストバッグ](#)
スリランカのアーティストとコラボレーションした新聞紙プロダクトのバッグが販売されている。生産は現地の津波被災者で組織されるNGOに委託。

[▶ ふるさとを取り戻せ ドキュメンタリー映画「1000年の山古志」](#)
注目のドキュメンタリー映画『1000年の山古志』絶賛上映中！

[▶ 先着25名！能登半島地震2周年記念の集い「語り継ぐツアー」で能登を知ろう](#)
レスキューストックヤードでは、能登半島地震の教訓を地元の研究者や学生たちから聞き語りする、1泊2日のツアーを開催する。先着25名！！このツアーは終了しました

[▶ ハート化粧品\(東京都三宅島\)](#)
三宅島で5月～6月に咲く、白いどくだみの花。この、どくだみの成分を「化粧品」に取り入れてはどうかと三宅島ハート商会は考えました。どくだみは、抗菌作用と保湿成分に優れていると昔から注目されている植物です。

習、災害図上訓練などを通じて、各地域の子どもからおとな、健常者から障害者までの幅広い参加、などの点に感じられる。

これらの点から、今後、従来の手法や課題にとらわれない、新しい防災教育や研修プログラムの開発が期待できるのではないだろうか。

▽照会先

北海道教育大学 教育学部准教授 佐々木貴子 TEL011-778-0684

その他の読み物を見る

- ▶ 伊藤和明のインサイト・アウト: [防災コラム「チリ津波が残した課題」](#)
- ▶ 随想: [防災専門図書館のことなど\(4\) 檜崎雄二](#)
- ▶ おもしろ瓦版: [日比野克彦氏らが出演 日本文化デザイン塾「防災とアート」](#)
- ▶ 防災ミュージアム: [日本歯科大学 新潟生命歯学部・医の博物館\(新潟県新潟市\)](#)
- ▶ 防災まちづくり大賞受賞団体: [白川村荻町区\(岐阜県大野郡\)](#)
- ▶ 知って得する: [「復興わがまち ご当地ごはん！」【第8回】宮城県「ずんだ餅」](#)
- ▶ ぼうさい閑話: [「ぼうさい閑話」防災法規・対策のむかし～防災基本計画 50年にちなんで](#)
- ▶ 周年災害: [2016年10月の周年災害／日本の災害・防災年表\(「周年災害」リンク集\)](#)
- ▶ 映画/DVDなど: [記者が観た！世界の終わり？圧倒的なスケールとリアルさが圧巻 映画『2012』](#)

バックナンバー

- 2016年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#)
- 2015年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2014年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2013年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2012年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2011年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2010年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2009年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2008年 [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [09月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#)
- 2006年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#)
- 2005年 [01月](#) [02月](#) [03月](#) [04月](#) [05月](#) [06月](#) [07月](#) [08月](#) [10月](#) [12月](#)



お役立ちツール

防災を学び、活動しようとする人々に役に立つ情報を提供。



リンク集

わが国の防災関連サイトを分野別にご紹介。



編集部ブログ

本誌編集部による折々にふれた防災随想・雑感。



サイトマップ(RSS)

各コンテンツの最新記事タイトル・URL情報をRSSで提供。

[このページのトップへ](#)

コンテンツは、有効なセキュリティ証明書によ

[お役立ちツール](#) | [リンク集](#) | [編集部ブログ](#) | [RSSマップ](#) | [組織概要](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトポリシー](#) |

Copyright (C) 2008-2012 Bosaijoho Shinbun-sha / All rights reserved. 「防災情報新聞」に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。防災情報新聞社